

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター

令和3年度後期

オンライン 伝音セミナー

—日本の希少音楽資源にふれる—

日本伝統音楽の講座に参加するのは初めて
という方にも、気軽に受講いただけるセミナーです。

LIVE配信

申込不要

視聴無料

日本伝統音楽研究
センターFacebook
からご覧ください。



<https://www.facebook.com/kcua.rijtm>

各講座の内容については内面の記載をご覧ください。

2021
12
9 『仁智要録』『三五要録』を聴く
—平安末期の箏と琵琶の音世界—
日本伝統音楽研究センター准教授 田鍬 智志

1

2021
12
23 中国「新音楽」と「新日本音楽」
における箏曲の発展
大学院音楽研究科日本音楽研究専攻 韋 又文

2

2022
1
6 19世紀西洋音楽が描く「日本」
日本伝統音楽研究センター特別研究員 光平 有希

3

2022
1
20 曲(芸)弾きを聴く
日本伝統音楽研究センター特別研究員 蘭田 郁
日本伝統音楽研究センター講師 齋藤 桂

4

2022
2
3 新内節の梅川忠兵衛
日本伝統音楽研究センター共同研究員 細野 桜子
(新内志賀様)

5

2022
2
10 近世雅楽譜の唱歌と旋律
日本伝統音楽研究センター特別研究員 出口 実紀

6

2022
2
17 平等院鳳凰堂に響く
天上の音楽
日本伝統音楽研究センター所長 渡辺 信一郎

7

開講予定

オンライン

公開講座

申込不要

視聴無料

日本伝統音楽研究センターYoutubeチャンネル
にてライブ配信予定

詳細内容については、大学ホームページ・伝音センターホームページ・SNS等でお知らせします。



令和3年度 第2回(第58回)

能楽演奏会〈其ノ二〉

シテ方金剛流×大鼓方石井流

2021年 11月24日(水) 午後2:40~4:00

能楽のシテ方五流の中で、京都を拠点として活動を展開しているのが金剛流です。今回は、金剛流宗家の金剛永謹氏(本学客員教授)、金剛龍謹氏(本学非常勤講師)のお二人をお招きし、大鼓方石井流の河村大氏による鼓のアシライによって、金剛流の謡をご披露いただきます。名手らによる、気迫のこもった立合をお楽しみください。

令和3年度 第3回(第59回)

崇仁の祭り囃子 —もう一つの六斎念仏—

協力：崇仁お囃子会

2022年 2月11日(金・祝) 予定

本学の移転先でもある、京都市下京区の崇仁春祭りの船鉾巡行では「だんじり」と呼ばれる囃子が用いられています。また、この地域にはかつて六斎念仏が行われていたという口伝やその道具が遺存しています。本講座では、祭り囃子の現状を紹介しながら、祭り囃子と六斎念仏との関係を考察します。

主催 | 京都市立芸術大学

京都市西京区大枝沓掛町13-6

URL: <https://kcua.ac.jp/>

問合せ先 | 京都市立芸術大学 事務局 連携推進課 (事業推進担当)

TEL 075-334-2204 (平日 午前8時30分~午後8時15分)



京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

オンライン 伝音セミナー

—日本の希少音楽資源にふれる—

LIVE配信

申込不要

視聴無料

<https://www.facebook.com/kcua.rijtm>

令和3年度 後期 開講予定 (12月～2月)

1 『仁智要録』『三五要録』を聴く — 平安末期の箏と琵琶の音世界

日本伝統音楽研究センター 准教授 **田鍬 智志**

2021年 12月9日(木) 14:40~16:10

藤原師長が編んだ箏譜『仁智要録』と琵琶譜『三五要録』は、こんにち、日本音楽の概説書に必ず取り上げられるほど、広く知られた譜集にもかかわらず、その中身を知る人は皆無とってよいでしょう。現在、推定される当時の雅楽の音楽スタイルでもって、両譜集の全曲演奏・レコーディングを進めています。今回は、すでに録音したなかから知られざる名曲の数々を、原譜を目で追いつながりながら鑑賞いただきます。

2 中国「新音楽」と「新日本音楽」 における箏曲の発展

大学院音楽研究科日本音楽研究専攻 **韋 又文**

2021年 12月23日(木) 14:40~16:10

20世紀初頭において、日本の「新日本音楽」と中国の「新音楽」では、西洋音楽受容の余波を受けて、伝統的な音楽様式を継承しながらも西洋音楽の演奏技法や作曲理論を採り入れ、新たな音楽を生み出し、発展させました。両国それぞれの「箏」の音楽もまた例外ではなく、西洋風の作品が多く生み出されました。20世紀から今日に至る日本箏と中国箏それぞれの音楽の発展の軌跡を、実演を交えて説明します。

※ 修士学位取得にかかる公開プレゼンテーションです。

3 19世紀西洋音楽が描く「日本」

日本伝統音楽研究センター特別研究員 **光平 有希**

2022年 1月6日(木) 14:40~16:10

オペラ《蝶々夫人》や交響詩《海》など、現代でも演奏機会が多いジャポニスム楽曲誕生のおよそ100年前。19世紀はじめから西洋では日本を題材にした小品楽曲が数多く生み出されました。日本情報が今より格段に少ない開国期前後、日本はどのように音楽で表象されたのか、その実態と魅力に迫ります。

4 曲(芸)弾きを聴く

日本伝統音楽研究センター特別研究員 **藪田 郁**

日本伝統音楽研究センター講師 **齋藤 桂** (コメンテーター)

2022年 1月20日(木) 14:40~16:10

常人には真似の出来ない超絶技巧で楽器を操り、アクロバティックな演奏を魅せる・聞かせる芸能があります。「曲弾き」とも言われますが、今回のセミナーでは主に三味線に焦点を当てて、そうしたワザの魅力に迫ります。定番の曲弾きから少し変わり種の演奏まで、数々の妙技とともにそれを魅せる演者のしかけにも注目します。

5 新内節の梅川忠兵衛

日本伝統音楽研究センター共同研究員 **細野 桜子**
(新内 志賀桜)

2022年 2月3日(木) 14:40~16:10

新内節には梅川忠兵衛ものの作品がいくつかあります。義太夫節「冥途の飛脚」(近松門左衛門作)を脚色した「傾城三度笠」、清元節「道行故郷の陽雨」を脚色した昭和期の作品を例に、新内節の特徴である上調子の旋律の多様性、合方の変化などについて、演奏者の目線から梅川忠兵衛の魅力に迫ります。

6 近世雅楽譜の唱歌と旋律

日本伝統音楽研究センター特別研究員 **出口 実紀**

2022年 2月10日(木) 14:40~16:10

近世の雅楽譜は、楽家ごとの伝承によって唱歌や一部の旋律にそれぞれ特徴がみられます。今回は京都・奈良・大阪の三方楽所の譜を用いて、当時の楽家の演奏がどのようなものであったのかを見て、聴いて、雅楽譜の唱歌と旋律について考えてみたいと思います。

7 平等院鳳凰堂に響く天上の音楽

日本伝統音楽研究センター 所長 **渡辺 信一郎**

2022年 2月17日(木) 14:40~16:10

宇治の平等院鳳凰堂には、創建以来の阿弥陀如来坐像のほか、壁面には木造の雲中供養菩薩像52体がのこっています。供養菩薩の多くは、手に様ざまな楽器を持ち音楽を演奏しています。平等院鳳凰堂に満ちあふれる天上の音楽は、どのような音楽なのか。楽器の編成に注意しながら、阿弥陀如来とともに耳をすまして聴いてみることにしましょう。